第一学年国語科書写学習指導案

展開学級　１年Ａ組
授業者　　田中政弘
展開場所　１年Ａ組教室

１．単元名　　楷書で書こう
－筆ペンの効能を生かした基本点画の理解を通して－

２．目標

・ 小学校で学習した楷書の基本点画（横画・縦画・左払い・右払い・そり・曲がり・折れ・右上払い・点）の筆使いを理解して書くことができる。
・ 筆順の原則を理解して、正しい筆順で、字形を整えて書くことができる。
・ 毛筆で学習したことを、硬筆に生かすことができる。

３．単元について

本単元の意義は、まず、楷書の基本点画（横画・縦画・左払い・右払い・そり・曲がり・折れ・右上払い・点）の筆使いを理解して書くことにある。とはいうものの、小学校３年次から楷書を学習してきた彼らにとって、「さあ、毛筆の書写書学習をします。まずは楷書から。」と言われても、何ら、新鮮味を感じることはないであろう。「ああ、またか。」「何を今さら・・・」と、意欲を欠いた態度になってしまう生徒もいるに違いない。

そこで、中学校書写を始めるにあたっては、生徒の書写学習に対する先入観や意識を切り替えるべきである。そのためには、中学校書写の目的を理解させ、小学校との違いを鮮明にしておく必要がある。中学校書写では「文字を正しく整えて書く」ことをめざしているが、「原則を理解した上で様々な文字に生かすこと」も求められている。培った文字感覚を、日常の「書く」活動の各場面につなげていくのである。日常では圧倒的に多い硬筆の場面に生かすものでなくてはならない。

「原則を理解した上で様々な文字に生かすこと」の意識が希薄であることは、作品の氏名の文字を見れば明らかである。せっかく課題となる文字に対しては基本点画の基礎が反映しているのに、氏名の文字はその培われた基礎力が充分に発揮されているとは言いがたい。(写真参照)

今回、楷書の学習を始めるにあたっては、このギャップに目をむけさせることを生徒の楷書学習への動機付けとしたい。「自分の氏名を楷書で整えて書くことができる。」という目標を設定し、基本点画の理解の充実を図りたい。

また、その過程で、筆ペンの使用を試みる。その理由として、

① 準備と片付けが楽である。
② 生徒の小筆の状況はあまり良くない。
③ 筆の穂先が崩れにくいので、穂先の通り道を観察するのに適している。
④ 限られたスペースで多くの基本点画を確認することができる。

等が挙げられる。

また、一人ではなく、班で取り組み、適宜、言語活動を織り交ぜながら、楽しく活動

できれば良いと考えている。教材を工夫し、小学校時代にすでに書写学習に苦手意識を持ってしまった生徒が、楷書の基本点画作成のメカニズムを理解し、「ああそうだったのか！」「これなら、できる。」と感じられるチャンスになれば、と願うものである。敗者復活戦とも言えるようなチャンスをものにし、毛筆学習に意欲的に取り組む姿勢が確立できれば、その後の学習がスムーズに運ぶものと、大いに期待できる。

その後、筆順や字形にも興味を持たせ、楷書で書くことの楽しさをさらに知らせたい。このような学習を通して、一人一人が自分の楷書に関する目標を設定し取り組むことで課題に対して主体的に取り組むことができると考えられる。また、「自分の文字・自分の楷書」に自信を持ち、ノート作りなど、日常生活のあらゆる場面で書くことに意欲的になる生徒の変容が期待できる。

4. 指導計画（５時間扱い）

時数	学習内容
1	毛筆書写　楷書　「天地」 ・　基本点画の横画・左右の払い・折れ・縦画・はね・曲がり・右上払いを理解して書く。
2	毛筆書写　楷書　「風車」 ・　点画の方向や接し方を理解して、穂先の向きにも留意して書く。 ・　「風」の３画めは、許容される書き方になっていることにも留意して書く。
3 (本時)	毛筆書写　楷書　「基本点画確認プリント」 ・作品に記された自分の氏名の書きぶりを振り返る。 ・基本点画確認プリントに筆ペンで、全ての基本点画を練習する。
4	毛筆書写　楷書　　「自分の氏名の清書」 ・作品に記された自分の氏名の書きぶりを振り返る。 ・自分の氏名を基本点画に留意しながら筆ペンで清書する。
5	硬筆書写　楷書 ・　筆順の決まりを理解する。 ・　さまざまな文字の筆順について考察する。 ・　筆順の決まりを理解して字形を整えて書く。

５．本時の指導（３/５）

（１）目標

基本点画の筆使いを確認し、自分の名前を楷書で整えて書く意欲を高める。

（２）展開（５／３）

過程	学習活動と内容	教師の指導・支援	評価の観点	資料
導入	１．前時までの学習を想起する。 ・「天」を楷書で書いたこと	・板書事項 ① 基本点画の一覧表 ② 「天」の優秀作品	前時までの学習内容を振り返れたか。 (思考・判断)	教科書
	２．氏名に生かされていない実態を知る。	・基本点画が未熟な氏名の文字を見せる。 (拡大コピー)		
展開	３．手本を見ながら自分の名前にある基本点画を確認する。 ・自分の名前について確認できたことや目標などを発表する。	・名前の手本の配布 ・まず、教師が自ら自分の氏名を例にして確認し、目標についても言及してみせる。 ・目標につながるような発言になるよう、発表をサポートする。	話し合いに意欲的に参加しているか。	基本点画一覧表
	４．本時の学習課題を確認する。 基本点画の書き方を身につけ、自分の名前に生かせるようにしよう。	・薄墨筆ペンで基本点画確認プリントに書かせる。 ・筆先に朱色の絵の具を付け、穂先の動きもよく分かるようにさせる。 （始めに教師の示範をテレビを通して見せる。）	基本点画に対する意識を高めながら書いているか。 （技能） 穂先の動きにも気をつけながら書いているか。（技能）	筆ペン 絵の具(朱色) 実物投影機 テレビ
	５．基本点画の筆使いを練習する。 ・薄墨筆ペンで基本点画確認プリントを使って練習する。 ６．自信のある基本点画のカードを作る。 ７．班で一枚の紙（B4）にそれぞれが書いた基本点画の中でベスト１を貼り、一覧表を完成する。 ８．台紙に貼られなかった作品は自分の練習プリントに貼る。	・班で一枚の台紙（B4）にそれぞれが書いた基本点画の中でベスト１を選び、貼らせる。 (できるだけ全員の作品を台紙に載せるようにアドバイスする。) ・適宜、完成した班の一覧表をテレビを通して全体に披露していく。	班で協力して行っているか。	確認プリント カード B4 大の台紙 のり 実物投影機 テレビ

まとめ	９．本時のまとめをする。	・基本点画の書き方を身につけられたか、振り返らせる。 ・次時には、本時の練習を生かして、自分の氏名を楷書で整えて書くことを知らせる。	本時をしっかり振り返り、次時への意欲が見えるか。。（意欲）	

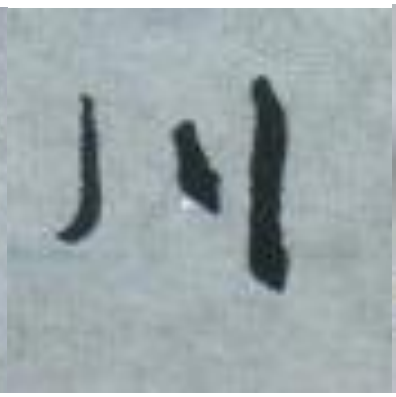
６．本時の学習活動に対する評価と評価規準

・基本点画の筆使いを確認し、自分の名前を楷書で整えて書く意欲を高めることができたか。（技能・意欲）

氏名に見られる未熟な基本点画

縦画・右払い　×

②縦画×



③右払い×

⑤　右払い　×

⑥そり　×

⑦折れ　×

⑧横画　×

⑨曲がり　×

⑩左払い　×

⑪点　×